

令和4年度 宇都宮市立陽東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1)「人間尊重」の精神を基盤とし、豊かな心の陶冶、自主性と創造性の伸長、体力・気力の充実を通して、心身ともに健康で、たくましく生きる創造的実践力をもつ子供の育成を図る。
- (2) 具体目標（目指す子供像） ○思いやりのある心豊かな子 ○進んで学び創意工夫する子
 ○元気で明るくがんばる子 ○きまりを守り責任を果たす子
- 【合言葉】 元気なあいさつ(やる気) だれにも親切（思いやり） きれいな陽東(根気)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

〔学校経営のテーマ〕 「楽しく、心豊かで、魅力ある学校づくり」

学校は、子どもたちが安心して学び合い、友達や教職員との関わりの中で伸びていける場である。また、教職員にとっては、その専門性を発揮しながら協働し、同僚性を培っていこうとする場であるという観点から本テーマを設定した。具体的には、どの子にも、どの職員にも居場所があり、一人一人のよさや可能性を互いの関わりの中で伸ばしていこうとする学校であり、保護者・地域との関わりを大切にして、信頼と協力で結ばれた学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 組織的に機能する学校
 - ・学校が組織的に機能するよう、「学校マネジメントシステム」や「教職員評価制度」等を活用し、様々な立場からの経営参画意識を高めるとともに、教職員それぞれの個性や能力を発揮した職務が遂行されるようにすることで学校力の一層の向上を図る。
 - ・「子供の健康・安全の充実はすべての教育活動に優先する。」ということを第一に考え、自他の生命を尊重し、安全な学校環境を整備する。
 - ・特別支援教育の考え方や方法を生かし、個に応じた支援ができるように努める。
- (2) 知・徳・体の調和のとれた「成長し続けるための基盤を培う」教育の実践
 - ・1人1台の端末環境を生かし、これからの学校教育を支える基盤的なツールとしてのICTの活用を始めていく。
 - ・基礎・基本を確実に習得させ、それらを活用する力を育成するとともに、目標をもち、自ら学ぶ意欲を育む。
 - ・心の教育の充実により、自信や自己有用感、規範意識、思いやりを育成するとともに、たくましさを涵養する。
 - ・生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。

○地域学校園の教育ビジョンを踏まえ、小中一貫教育の推進に努める。
- (3) 教職員の資質・能力の向上
 - ・新学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践に向け、指導力・授業力の向上を図る。
 - ・一人一人の学級経営力を高めるとともに、学年内の連携を図った指導を工夫する。
 - ・児童が「個別最適な学び」を進められるよう、学習内容の確実な定着を図る観点や、その理解を深め広げる学習を充実させる観点からカリキュラム・マネジメントの充実・強化を進める。
- (4) ○家庭・地域・社会と連携した社会に開かれた教育課程の実現
 - ・学校マネジメントシステムの公開や教育活動の広報を行うとともに、地域協議会や学校ボランティアとの連携を図る双方向型の活動の一層の充実を図る。
 - ・保護者、地域、社会とのかかわりを重視し、体験活動の充実等を図る。
- (5) 「働きがい」と「働きやすさ」を両立する働き方の推進
 - ・校務・事務の効率化と適正化のため、個々の業務の改善やICTの活用を推進する。
 - ・高い同僚性のもと、児童指導や学習指導の工夫改善が職員間で共有できるように努める。
 - ・教職員を目指すボランティアなどを積極的に受け入れ、魅力を体感してもらう。

「陽東地域学校園教育ビジョン」

地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、
確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

4 教育課程編成の方針

本校においては、改訂された学習指導要領及び上述した学校経営目標、理念、具体策を具現化するために、下記のような方針をもとに教育課程を編成し実施する。

- (1) 教科等横断的な視点を踏まえ、各教科等の関連を年間指導計画に位置付けるなどしながら、教育内容や時間の適切な配分に努める。
- (2) 実施に当たっては随時その状況を評価し、児童の実態等に合わせて改善を図ることを繰り返すものとする。
- (3) 校内外の人的、物的体制を最大限活用し、児童への教育効果を高める内容とする。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・「楽しく、心豊かで、魅力ある学校づくり」

【学 習 指 導】

- ・「学ぶことを楽しみ、生活を豊かにする子供の育成」

【児 童 生 徒 指 導】

- 「豊かな心を持ち、自ら考え、適切な判断と行動ができる児童・生徒の育成」

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・「進んで体を動かそうとする意欲を持ち、自らの健康・体力の向上に励む児童の育成」
—運動量が多く、楽しみながら体力が高められる教科体育・体育的行事の工夫—

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかり聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 基本的な学習態度・技能を身に付けさせるために、教師間での共通理解を図るとともに、児童に「学習の約束」を年度初めや学期初めに数回周知指導に当たる。 ② 児童の考えを引き出し深める発問や板書を工夫し、自分の考えをもって学び合える学習活動を重視する。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業研究会や職員研修を実施し、指導力の向上に努める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 95.2%で目標値を上回った。 ・一人一台端末を使用することに慣れてきて、学習の様々な場面で活用することができ、学び合いにもつながった。 【次年度の方針】 ・児童の思考を深めるような学習活動を工夫し、学び合いを重視した授業を展開していく。 ・振り返りの時間を設け、自分の学びの自覚化を図っていく。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 登校班での登校や縦割り班での休み時間の共遊、たんぽぽ学級との交流等を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育てる。 ② 体験と関連を図った道徳科の授業を通して、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 91.7%、教職員の肯定的回答は 100.0%で目標値を上回った。 ・昨年度に比べて、異学年での交流を図る機会を多くとることができ、思いやりをもって生活できた。 【次年度の方針】 ・次年度も縦割り班活動における共遊・清掃活動の交流を継続し、深めていきたい。

目 指 す 児 童 の 姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 規範意識や社会生活上のルールを尊重する態度を育てるため、「陽東小の児童の一日」を各教室に掲示し日常的に指導を行う。 ② 基本的な生活習慣を身につけさせるため、隔週で生活目標を設定し、生活当番を中心に全職員で指導を行う。 ③ 「陽東小の合い言葉」をもとに、児童が相互に認め合う場や教師が称賛する機会を多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。	B 【達成状況】 ・児童生徒の達成状況は、89.7%で目標値を上回った。 ・「陽東ピカイチ賞」を全校朝会で表彰したり、陽東小の3つの合言葉を定期的に生活目標に設定したりしていることが、規範意識の向上によい影響を与えている。 【次年度の方針】 ・地域学校園で、共通して取り組むべき内容を精選したり、きまりの周知方法を工夫したりして、規範意識をさらに高めていく。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 登校班長会議や一斉下校での日常的なあいさつ指導とともに、放送や広報、さらに計画・集会委員会による「あいさつ運動」を実施する。生活目標の中にあいさつに関する目標を頻繁に入れて、意識を高める。 ② 地域学校園で設定した「あいさつの日」を設け、実施するとともに、保護者への啓発活動を行い、学校・家庭・地域が連携してあいさつへの意識を高めていく。 ③ 時と場に応じたあいさつについて、具体的な場面を想定させて指導する。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は94.0%で、目標値を上回った。 ・大声を出せなかったり、マスクをしていたりしても、方法を工夫しながら、あいさつ運動を継続できた。 【次年度の方針】 ・生活目標にあいさつに関する目標を定期的に掲げ、誰にでもあいさつする意識を高める。 ・地域の方に、進んであいさつできるように、登校班の班長を中心に指導をし、よい手本を示せるような方法を考えていく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は92.2%で、目標値を上回った。 ・昨年よりも、目標をもって取り組む活動の機会を多くもてた。 【次年度の方針】 ・行事だけではなく、各教科の授業においても、目標を明確にし、児童が目標を意識して、毎時間取り組めるようにする。 ・目標達成までの過程を認め、励ます指導の充実を図る。

目 指 す 児 童 の 姿	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や「安全に気を付けて生活している」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 児童が自分の健康に関心をもち、自ら健康に気を付けて生活できるよう、体育、学級活動等の教科を中心とし、児童会活動や学校行事と関連させながら、運動・保健指導、及び日常の生活指導を行う。 ② 学校給食と教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 自らの命を守る行動力を育成するため、日常における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 93.3%、保護者の肯定的回答は 93.4%で、目標値を上回った。 ・業間休みや昼休みには、積極的に活動している児童が多く見られた。 ・マスクの着用・消毒や手洗いなどを徹底して指導し、児童も意識して感染予防に努めた。 ・図書とのコラボ給食や地域学校園統一献立等を通して、食への関心を高めた。 ・定期的な朝の立哨指導、一斉下校を実施して、安全な登下校について指導した。 ・交通安全教室や避難訓練等を実施し、児童自身の安全への意識を高めた。 【次年度の方針】 ・学校と家庭の間で、食育ファイルのやりとりを行う。 ・長期休みなどによる家庭での運動への取組や食育に関する啓発・促進等を通して、児童の体力・健康への保護者の理解と協力を促す。
	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して育む。 ② DVDや書籍などの資料を活用して、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育てる。 ③ ゲストティーチャーによる「夢に向かって」や地域の行事へのボランティアとしての参加等により、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育てる。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 92.2%で、目標値を上回った。 ・ゲストティーチャーによる出前授業を実施したり、キャリアパスポートを活用したりすることで、将来の夢や希望を描く手助けとなった。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き、児童にとって有意義な活動の機会を確保していく。 ・キャリアパスポートを有効に活用するために、行事等の振り返りをしながら自身の変容や成長を自己評価できるようにしていく。
	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 外国語活動（英語活動）を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語活動（英語活動）に関する校内研修などを実施し、指導力や英語力の向上を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 93.7%で目標値を上回った。 ・感染症対策をしながら対話を取り入れた活動が行えるようになり、進んでコミュニケーションを図ることができた。 【次年度の方針】 ・ALTとの打ち合わせ等を通して、指導力や英語力の向上を目指す。

目 指 す 児 童 の 姿	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業において、教科書や副読本、映像資料等を活用し、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 88.2%で、目標値を上回った。 ・今年度も、授業の中で宇都宮の良さにふれることができた。 【次年度の方針】 ・授業等で宇都宮の良さにふれる機会を引き続き設定していく。 ・5、6年生は、総合的な学習の時間等で、さらに「宇都宮学」の学習を充実させる。
	A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童が、ICT機器に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書を充実させ、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 定期的な読み聞かせや読書の時間の設定、すきま読書の習慣化などを通して、児童の読書意欲を喚起する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答の割合は 93.0%、教職員の肯定的回答は 100%で目標値を上回った。 ・図書や一人一台端末を積極的に活用して調べ学習をしたり、授業の中の様々な場面で積極的に一人一台端末を活用したりすることができた。 【次年度の方針】 ・学習の成果を保護者に見てもらう機会をつくる。 ・引き続き図書や一人一台端末を積極的に活用していく。
	A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は誰に対しても思いやりの心をもっている」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 道徳科の授業や学習活動において、感謝や相手を思いやる心を育む。 ② 授業や行事等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や思いやる心を育む。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 91.7%、教職員の肯定的回答は 100.0%で、目標値を上回った。 ・体験的な活動の機会をなかなか設けられない中でも、道徳の授業を通して、豊かな心の教育を目指す授業展開に努めた。 【次年度の方針】 ・道徳科・体験活動等の教育活動を通して、高齢者への感謝の気持ちやいたわる心を育んでいく。
	A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 総合的な学習の時間における環境教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② ど根性ひまわりや過去の災害の具体事例などから学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 88.9%、教職員の肯定的回答は 83.3%で、目標値を上回った。 ・総合的な学習の時間や社会科等の教科指導を通して、環境への関心が高まるよう指導した。 【次年度の方針】 ・引き続き、総合的な学習の時間や社会科等の教科指導の中で、環境問題や防災について身近なこととして考えられるよう、指導し、関心を高めていく。

目 指	B1 児童は、友達と仲良く生活し、楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、友達と仲良く生活し、楽しい学校生活を送っている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童の小さな変化や様子を見逃さないように多くの教職員の目で観察し、情報交換を積極的に行う。 ② 「陽東タイム」での共遊の時間を確保し、良好な友達関係を築けるようにする。 ③ Q-U調査を分析し、学級経営に生かす。 ④ 不登校傾向児童に関して、学校態勢で対応する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 95.5%で、目標値を上回った。 ・上級生が、下級生に対して優しく接しているため、児童全体が和やかな雰囲気の中で学校生活を送ることができた。 ・Q-U調査の分析を、日頃の指導や今後の課題を確認することに役立てることができた。 【次年度の方針】 ・児童に関しての細かな情報を、全職員で共有し、小さな変化に素早く気づき、よりよい方向にいくよう進めていく。
	B2 児童は、家庭学習に進んで取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「わたしは、家庭学習に進んで取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の時間や内容、方法等に関するガイドラインを全職員で共有し、指導にあたる。 ② 学年に応じて自主学習帳を活用したり、家庭学習の記録を行ったりし、教師がそれらに目を通し、認め励まして継続できるようにする。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答の割合は 87.9%で、目標値を上回った。 ・家庭学習の習慣化を図るために、全職員で指導にあたることができた。 【次年度の方針】 ・家庭学習の時間や方法などを保護者にも示し、共通理解を図りながら家庭との連携を図っていく。 ・自主学習帳は継続して使用し、AIドリルの効果的な活用についても検討していく。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② ユニバーサルデザインを意識した配慮を行うことで、教職員や児童の合理的配慮への意識の向上を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%で、目標値を上回った。 ・多くの教職員が関わり、全校体制で支援することができた。 【次年度の方針】 ・特別支援学級の児童一人一人のニーズに合わせ、各機関との連携を図りながら、交流学級の関わりを工夫し、よりよい方法を見つけていく。

す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 80% 以上	① 学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが絶対に許されない行為であることを繰り返し指導する。 ② 児童会が主体となった、「いじめゼロ強調月間」の実施等を通して、いじめの起こらない環境づくりに努める。 また「いじめゼロ強調月間」での学校の取組を「児童指導だより」やホームページ等で保護者及び地域住民に周知する。 ③ いじめの早期発見、早期対応のため、いじめアンケートを年間4回行う。(5・7・10・1月) ④ いじめの早期発見や的確な児童理解のため、5、11月に全児童を対象に教育相談を行う。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は98.5%で、目標値を上回った。 ・いじめについてのアンケートを、いじめの未然防止と初期対応に有効活用できた。 ・教育相談等を通して、児童の悩みを聞き、学年間で素早く対応することができた。 ・「いじめゼロ強調月間」での学校の取組等を「児童指導だより」等で保護者にも周知することができた。 【次年度の方針】 ・「いじめゼロ標語」を全校児童で作成し、掲示することで意識を高めさせる。 ・SNS上のいじめを防ぐため、リーフレットを配ることに加え、各家庭でのルール作りを推奨していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励ましかうクラスをつくってくれている」⇒児童の肯定的回答 90% 以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。【A5①再掲】 ② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る情報の共有を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は98.0%で、目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・各種アンケートやQ-U調査のデータを分析し、その情報を共有することで児童理解を深め、支援に生かしていく。 ・学校での活動の様子をHP等で保護者や地域住民に積極的に紹介していく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている」⇒教職員の肯定的回答 90% 以上	① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 児童が、互いの国籍や文化の違い等を認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。 ③ 外国人児童の実態や家庭環境に応じた日本語指導講師や学校ふれあい日本語教室、ボランティアの活用を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定回答が100%で目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・児童の実態について、共通理解を図り、実態に応じた指導ができるよう、家庭との連携を深めていく。 ・今後も、必要な児童に日本語指導の機会が与えられるよう、日本語指導講師や日本語ボランティアの活用を図る。

A 17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童が明るく充実した学校生活が送れるよう、諸活動を月ごとにバランスよく配置する。 ② 特別活動において、児童の主体的な活動を重視するとともに、一人一台端末を活用するなど、縦割り班活動を可能な範囲で実施する。 ③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が、93.7%で、目標値を上回った。 ・今年は生活の制限が緩和されたことにより、学校で実施できた活動が多く、学校全体に活気が戻ってきた。 【次年度の方針】 ・感染対策をしながら、行事や活動を活発に実施できるように、計画の段階から工夫していく。
A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 分かる授業を目指し、授業研究会を行ったり指導法について研修を行ったりする。 ② 個に応じた指導の充実を図るため、児童の実態を把握し、学習内容に応じて少人数指導やＴＴによる指導等を取り入れ、学習形態を工夫する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答が98.2%で、目標値を上回った。 ・本校の研究テーマに基づいた授業研究会を実施することができた。 ・研究を進めることを通して、児童の学力向上並びに教員の指導力向上につながった。 【次年度の方針】 ・今年度取り組んだ内容を更に進めていく。
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 教職員は、学校図書館司書、かがやきルーム指導員、ALT、SC等の専門性を有する学校スタッフと、コミュニケーションを図りながら連絡調整を行い、業務の推進に努める。 ② 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら「チーム陽東」として取り組むよう努める。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が96.7%で、目標値を上回った。 ・年齢に関係なく職員間のコミュニケーションが活発になり、報告・連絡・相談がスムーズに行われた。 【次年度の方針】 ・それぞれの専門性を生かし、より気軽に意見を出し合うなど、コミュニケーションをとれるような雰囲気づくりに努める。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 教職員の業務の見直しと、学校図書館司書、かがやきルーム指導員、ALT、SC等の専門性を有する学校スタッフとの連携により、教職員の業務の効率化を図る。 ② 学習情報システムをはじめとしたＩＣＴを活用した各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。 ③ 校務分掌の見直しなど、業務の適切な役割分担や効率的な実施、計画的な処理に努め、教職員一人一人が、勤務時間を意識しながら取り組む。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は83.3%で、目標値を上回った。 ・教職員の意識が変化し、勤務時間を意識しながら業務にあたるようになった。 【次年度の方針】 ・ICTを活用したシステムを効果的に活用したり、効率的な実施・計画的な処理をしたりするなど、効率や質の向上に努める。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 乗り入れ授業、教科分科会、6年生の進学先中学校訪問等を、ZOOMやビデオなどのICTを活用し、効果的に実施する。 ② 学年だよりや学校だより、ホームページ等で、取組の状況を紹介し、広報活動を積極的に行う。 ③ 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会等を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答が81.3%で、目標値を上回った。 ・乗り入れ授業や地域学校園内での活動をホームページ等で紹介したことにより、保護者への周知が広まった。 【次年度の方針】 ・小中一貫での取組等をホームページ等で継続して紹介し、充実した活動が行えるよう努める。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	① 心の交流を大切にしながら、学習ボランティアコーディネーターなどと連携を図り、ZOOMやビデオなどのICTも活用するなど、可能な範囲で、地域の人材を活用した教育活動を行う。 ② 児童が人とかわりながら、体験的に学ぶ機会を充実させるため、保護者や企業、地域団体等の協力を得た授業を実施する。 ③ ZOOMやビデオなどのICTを活用するなど、可能な範囲での、ゲストティーチャーによる指導や地域の行事へのボランティアとしての参加等により、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育てる。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答が89.8%、地域住民の肯定的回答が95%で、目標値を上回った。 ・地域と連携した活動ができたことや、活動をホームページで紹介したことで、認識が深まった。 【次年度の方針】 ・できる活動をさらに増やし、連携・協力・アピールに努める。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 早寝早起きや朝食をとること、あいさつや言葉遣いなどについて、保護者に呼びかけ、家庭と連携を図ることで、望ましい生活の習慣化を図る。 ② 心の交流を大切にしながら、学習ボランティアやコーディネーターなどと連携を図り、ZOOMやビデオなどのICTも活用するなど、可能な範囲で、地域の人材を活用した教育活動を行う。【A22①再掲示】 ③ 児童が人とかわりながら、体験的に学ぶ機会を充実させるため、保護者や企業、地域団体等の協力を得た授業を実施する。【A22②再掲示】	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答が89.8%で、目標値を上回った。 ・ホームページに学校の活動状況を随時掲載することで、保護者や地域の方々の安心につながり、児童も安心・安全のもと、学校生活を送ることができた。 【次年度の方針】 ・社会情勢を見極めながら、保護者同士の連携、地域と保護者の連携、地域と学校の連携を強化し、さらによりよい交流や学習に取り組めるよう努める。

A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については、迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入の不測の事態の備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 ・保護者と教職員の肯定的回答は 100%で、目標値を上回った。 ・安全点検を月に 1 回行い、その都度確認や修繕依頼等を行った。 ・避難訓練については、年度初めに共通理解を図り、指導した。 ・養護教諭の衛生面への環境整備や職員・児童への周知、共通理解の共有などにより、熱中症対策や新型コロナウイルス等の感染に関する予防意識が校内で高まった。 【次年度の方針】 ・引き続き、手洗い・うがいや消毒、換気など、感染症予防に向けた取組を進めていく。 ・月に 1 回の安全点検を行い、改善・修繕箇所を職員で共通認識を持つ。 ・避難訓練については、不測の事態に対する事前の指導を心がけ、繰り返し行っていく。 ・健康や安全に関する学校での取組、校内研修での様子を学校だよりやホームページを通して保護者及び地域住民に周知し、理解を求める。
A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、I C T 機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①児童が、I C T 機器に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的に I C T 機器を活用する。【A10①再掲】 ② 各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 【A10②再掲】 ③ 定期的な読み聞かせや読書の時間の設定、すきま読書の習慣化などを通して、児童の読書意欲を喚起する。 【A10③再掲】	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 93.0%、教職員の肯定的回答は 100%で、目標値を上回った。 ・一人一台端末を文具として活用する取組を進めることができた。 ・図書室の環境整備や定期的な読み聞かせにより、図書室の利用促進を図ることができた。 【次年度の方針】 ・一人一台端末の家庭での利用や、家庭での読書の習慣の形成を、保護者と協力しながら進めていく。 ・一人一台端末の、学年に応じた利用方法を確立していく。

本校の特色・課題等	B3 あいことば「元気なあいさつ」を具現化する活動に取り組んでいる。【やる気】〔全〕 【数値目標】 全体アンケートの「学校はあいことば『元気なあいさつ』を実現するためにあいさつ運動などの具体的な取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 放送・広報委員会等によるあいことば週間（あいさつ運動）を行い、校内あいさつの活性化を図る。 ② 校外でのあいさつの状況を把握し、学級、登校班長会議、一斉下校などの機会を捉えて指導する。 ③ 校内での取組を、学校だよりやホームページなどに掲載することにより保護者や地域の方にも周知し、協力を得る。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 87.5%で、目標値を上回った。 ・新型コロナウイルス感染症対策をしながら、できる範囲であいさつ運動を行った。その結果、教職員、地域住民、児童の肯定的回答が昨年度より伸びている。 (教職員 96.7%, 地域住民 100%, 児童生徒 96.2%) 【次年度の方針】 ・今後も引き続き、計画集会委員会を中心としたあいさつ運動を行い、「元気なあいさつ」の実践を図る。 ・校内での取組を保護者に周知するために学校だよりやホームページなどで、掲載していく。
	B4 あいことば「だれにも親切」を具現化する活動に取り組んでいる。【思いやり】〔全〕 【数値目標】 全体アンケートの「学校は、あいことば『だれにも親切』を実現するために、親切カードの活用や、認定こども園との交流などの具体的な取組を行っている」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 親切委員会によるあいことば週間「親切の〇〇」を行い、全校で盛り上げる。 ② 各クラスで友達の親切なところやすごいところをカードに書く「ありがとう・すごいねカード」に取り組ませる。 ③ 幼稚園・保育園との交流、縦割り班活動、地域の方との交流等、児童の主体的な活動を推進する。 ④ 道徳授業の充実と人権教室の開催と人権週間における啓発を行う。 ⑤ 特別支援学級との交流及び共同学習や縦割り班活動を推進する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 86.9%で目標値を上回った。 ・親切委員会による「親切の木や親切の宅急便」の取組が、肯定的回答につながったと考える。 ・「縦割り班活動」は可能な範囲で実施できた。 ・特別支援学級と積極的に交流したことで、お互いに子供たちの心の成長が見られた。 【次年度の方針】 ・来年度も道徳の授業を充実させると共に、いじめゼロ週間や人権週間の標語づくりの取組も継続していく。 ・今後も引き続き、あいことば週間の取組を充実させていく。 ・今年度は「幼稚園との交流」ができなかったが、新型コロナウイルス感染症が収束した際には、再開する。

B5 あいことば「きれいな陽東」を具現化する活動に取り組んでいる。 【根拠】〔全〕 【数値目標】 全体アンケートの「学校は、あいことば『きれいな陽東』を実現するために、ボランティア活動や地球に優しい活動（学校環境ISO）などの具体的な取組を行っている」 ⇒ 保護者の肯定的回答 85%以上	① 環境美化委員会によるあいことば週間（美化運動）を行い、環境・美化の意識を高める。 ② 全校落ち葉清掃活動、6年生の清掃ボランティア、美化委員会の朝の昇降口清掃等のボランティア活動を推進する。 ③ 委員会によるグリーンカーテンの設置等、地球環境を守るための活動を行う。 ④ ふれあい班を中心としたプランターの管理や栽培活動を行う。 ⑤ 校内での取組を、学校だよりやホームページなどに掲載することにより保護者や地域の方にも周知し、協力を得る。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は92.5%で目標値を上回った。 ・6年生の清掃ボランティアや環境美化委員会の清掃活動、あいことば運動は、あいことばの「きれいな陽東」を実現するための役割を果たした。 【次年度の方針】 ・今後も「きれいな陽東」を具現化するため、環境美化委員会や飼育栽培委員会の活動を充実させる。 ・日ごろの清掃指導や全校落ち葉清掃、6年生の清掃活動等から、児童のきれいな学校づくりの意識を高め、活動内容を学校だよりやホームページに掲載し、周知していく。
--	--	---

〔総合な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 教育全体の状況

・すべての評価項目において、肯定的な回答の割合が目標値を上回った。今年度の様々な教育活動が、児童の健やかな成長のために効果をあげたと言える。また、児童の肯定的回答の割合が、ほとんどの評価項目で昨年を上回っていることから、児童の自己肯定感の高まりが感じられる。「陽東ピカイチ賞」等で児童のよさを認め励ましてきたことや、各学級で児童が互いのよさを認め合う取組を行ってきた成果である。

・「学習への取組」や「分かりやすい授業」について、児童の肯定的な回答の割合は目標値を大きく上回っており、昨年度よりも高くなっている。ただ、同じ項目についての保護者の肯定的な回答の割合は、昨年度をやや下回った。また、「家庭学習への取組」についての肯定的回答の割合が、児童・保護者・教職員のいずれも昨年度よりやや下回り、さらに、「ICT機器や図書等の活用」についても、保護者の肯定的回答の割合が下がった。今後も、教職員一人一人が指導力をいっそう高め、体験活動を充実させるなど、児童が意欲をもって熱中する授業を展開するよう努める。また、保護者との連携のもと、家庭での学習習慣の定着を図り、児童の学力の向上に努めるとともに、学習の成果を保護者や地域の方々に見ていただく機会を可能な範囲で設けていく。

・「きまりやマナーを守ること」についての児童の肯定的な回答の割合は、目標値を上回った。「陽東小の一日」や生活目標を教職員で共通理解し、同一歩調で児童への指導を行ったり、「あいことば週間」を月1回実施し、学校全体で学校・学級づくりに取り組んだりしたことが、児童の規範意識の向上につながったと考えられる。

・「思いやりの心」についての肯定的な回答は、目標値を上回るとともに、いずれの対象者においても昨年度を上回っている。感染症対策を講じ、やり方を工夫しながらも、昨年度より交流活動の機会が増えたことや、道徳科において豊かな心の育成を目指す授業展開に努めた結果と言える。

・「いじめ対策」についても、児童・教職員ともに肯定的な回答の割合が高い。年4回のアンケート調査と、その都度教育相談等を行ったことで、いじめを未然に防いだり早期に解決できたりした成果と考えられる。保護者の肯定的割合は昨年度同様、他の対象者よりは低い割合を示している。今後も、いじめ対策を強化していくとともに、それを保護者の方々にも周知する手立てを講じていく。

○「あいさつ」については、目標値を上回り、児童の肯定的な回答は昨年度より高い結果となった。マスクの着用や大声を出すことを控えるなどの感染症対策を行いつつも、可能な範囲で「あいさつ運動」をはじめとした取組を行ってきた成果である。今後も、引き続き、家庭・地域と連携を図りながら、全校体制で取り組んでいく。

2 本校の特色について

・「元気なあいさつ」「だれにも親切」「きれいな陽東」3つの項目で、肯定的回答が全て目標値を上回った。児童一人一人に学校教育目標を受けた「陽東小のあいことば」が浸透し、それを意識した生活がおおむねできていると言える。感染症対策を行いつつも、学習面・生活面で、可能な範囲での取組を工夫して行ってきた成果である。「陽東ピカイチ賞」の実施をは

じめとした、自分の行動を振り返ったり、よい行いを認め合ったりする取組により、児童一人一人の自己肯定感の高まりも感じられる。今後も、「陽東小のあいことば」を核として児童への指導を行い、保護者や地域住民の方々にもその取組をより一層理解していただけるよう努力していく。

7 学校関係者評価

○教育活動全体について

感染症対策等のため制約がある中で、工夫して教育活動を行っていた。特に「互いを認め合う・褒め合う」活動を、今後も継続してほしい。

○あいさつについて

児童と地域の方々が会う機会が減ったことが、あいさつについての肯定的回答の割合が下がった一つの理由であろう。子供たちからのあいさつを促すだけでなく、大人からの声掛けも必要と感じる。子供たちの元気なあいさつが大人の励みになっているので、今後も取組を継続してほしい。

○学校評価アンケートの回答率について

紙ベースの時より、回答率は減っているのではないか。回答を促す手立てを講じてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・今年度は、生活科・総合的な学習の時間を中心に、一人一台端末を効果的に活用した授業の展開を積極的に行い、児童の学習への意欲を高めるよう努めてきた。その結果、児童一人一人の学びに向かう態度の育成が一層なされてきており、各学力調査にもその成果が表れている。今後さらに、家庭学習の時間や方法等を保護者にも示し、共通理解を図りながら保護者の理解と協力を得た家庭学習への取組の充実を図る。

○「あいさつ運動」をはじめとして、家庭・地域学校園・地域と連携を図った具体的な取組を進めるとともに、道徳の学習においてあいさつの果たす役割の意識づけをしたり、あいさつを実践する場の設定や指導をしたりすることによって、気持ちのよいあいさつができる児童の育成に一層努める。

・次年度も「いじめ防止」や体罰の根絶に向けて、児童に対して年4回のアンケート調査と、その都度行う教育相談による早期対応及び教職員の研修等を随時実施していく。さらに学校の行っている取組を保護者へ周知できるよう、「学校だより」「学年だより」「児童指導だより」等の発行やホームページの細かな更新に努め、情報発信の機会を多くし、その方法・内容の検討・改善を図る。

・「陽東小のあいことば」に合わせた取組を次年度も継続して行う。「陽東ピカイチ賞」の実施や発達段階・児童の実態に合わせた各学級での取組により、自分の言動を定期的に振り返ったり、よい行いを認め合ったりする機会を設け、児童の自己肯定感の一層の高まりや望ましい行動への意欲付けを図る。

・教職員個々の業務の見直しやICTの活用により、校務の効率化と適正化を図り、働き方の改善を推し進める。